

報道関係各位

平成 27 年 3 月 17 日
一般財団法人 沖縄美ら島財団

水無し長持ち 1 ヶ月！沖縄の絶滅危惧植物から育種した 「ちゅらら」シリーズが品種登録

一般財団法人 沖縄美ら島財団（本部町）は千葉大学との共同研究により、絶滅危惧植物であるリュウキュウベンケイを交配して作った切花用の園芸品種「ちゅらら」シリーズを開発しました。

「ちゅらら」シリーズ（一部紹介）



ちゅららレインボー（一重タイプ）



ちゅららダブル（八重タイプ）



「ちゅらら」シリーズは沖縄県に自生するリュウキュウベンケイという植物を使って開発しました。リュウキュウベンケイは自生地の開発などにより数が減少している絶滅危惧植物です。沖縄美ら島財団は、リュウキュウベンケイの保全に 16 年前から取り組んできました。

リュウキュウベンケイの特徴は長い茎です。この特徴を活かし、リュウキュウベンケイが切花として身近に飾ってもらえる存在になれば、多くの人に知ってもらうことができ、保全にもつながると考えました。そこで、千葉大学と共同研究を行い、10 年の歳月をかけて、切花用として観賞価値を高めた園芸品種「ちゅらら」シリーズ（7 品種）を開発。その中でオレンジ色の八重の花を咲かせる「ちゅららダブル」など 2 品種が 2014 年 9 月に品種登録されました。品種登録により、園芸農家が「ちゅららダブル」を生産することが可能になりました。残りの 5 品種も登録申請中です。

【「ちゅらら」シリーズの 3 つの特徴】

- ・ カラフルな花色 : 鮮やかな色合いで、ピーチ、オレンジ、レモンイエローと多色あります。
- ・ すらりと長い茎 : 約 60~80cm の長い茎があり、切花や大鉢栽培に最適です。
- ・ 水無しでも長持ち : 「ちゅらら」シリーズは多肉植物です。水無しの状態で 1 カ月は花持ちします。

「ちゅらら」シリーズの開花時期は 12 月~2 月です。現在も切花用途としての扱いやすさの向上など更なる改良を重ねています。近年中に広く普及し、花屋などにも流通される見込みです。

また沖縄美ら島財団と沖縄県農林水産部は、園芸農業の振興に関する協定を 2015 年 3 月 10 日に締結しました。協定による取り組みの一つとして、「ちゅらら」シリーズの普及に向けた事業を協働で推進し、沖縄県の園芸農業の振興を図っていきます。（別添資料 2）

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 経営企画課 木下・高那

TEL 0980-48-3645 / FAX 0980-48-2200

【 開発の経緯～リュウキュウベンケイを後世に残すために～】

沖縄美ら島財団がリュウキュウベンケイの調査を始めたのは今から 16 年ほど前になります。黒船とともに来航したペリー提督らが琉球から持ち帰った植物標本の中にリュウキュウベンケイを見つけたことに端を発します。調査当時は植物標本として形が残るのみで、リュウキュウベンケイが沖縄に存在しているのか、誰も分からない状態になっていました。「リュウキュウベンケイは沖縄に残っているのだろうか。」まだ見ぬ植物に期待を膨らませて私たちは県内を探し始めました。過去の記録を辿り、県内各地を歩き渡り、やっとのことで宮古諸島にてリュウキュウベンケイを見つけたことができたのです。その後、新聞にて情報提供を呼びかけたところ、多くの県民の方々からの情報も寄せられました。

再発見されたリュウキュウベンケイは数少なく、絶滅寸前であったことから保全活動に取り組んでいくことを決意しました。幸い、挿し木で容易に株を増やすことができました。しかし、単に株を増やすだけではリュウキュウベンケイを後世に残すことはできません。「なぜ」守らなければならないのかを明確にしなければ、いつか人々から忘れられてしまいます。そこで私たちはリュウキュウベンケイのもつ可能性について考えました。リュウキュウベンケイはすりと背が高く、美しい花を咲かせます。この特徴をうまく生かした切花を作ることができれば、新たな花卉品目として利用され、園芸振興につなげることができます。リュウキュウベンケイが人の暮らしに役立つことが明確になれば、その存在の重要性について多くの人々と共有でき、末永く守り継がれるようになります。

切花用のリュウキュウベンケイを作るため、私たちは千葉大学園芸学部植物細胞工学研究室と品種改良の共同研究を行いました。2003 年から始められたこの研究は、様々な近縁種との交配を繰り返し、良いものだけを選抜していく方法で行われました。そしてリュウキュウベンケイと、園芸品種として従来から普及しているカランコエを交配した「ちゅらら」シリーズを開発しました。その中でオレンジ色の八重の花を咲かせる「ちゅららダブル」など 2 品種が 2014 年 9 月に品種登録されました。品種登録は植物における特許のようなもので、新しくできた品種が世の中で認められ、普及する上でなくてはならないものです。品種登録されたことにより、園芸農家が「ちゅららダブル」を生産することが可能になります。また「ちゅららダブル」の他にも、ピンクやイエローの花を咲かせる仲間も登録申請中であり、2016 年頃には登録される予定です。

「ちゅらら」シリーズは沖縄にリュウキュウベンケイがあったからこそ生まれた美しい花です。近年中には花屋などにも広く流通される見込みです。「ちゅらら」シリーズをお手に取られた際は、沖縄の貴重な自然を感じ取っていただければ幸いです。



再発見されたリュウキュウベンケイ



リュウキュウベンケイ（左）と従来からあるカランコエ（右）



リュウキュウベンケイをもとに作り出された「ちゅらら」シリーズ

沖繩県と沖繩美ら島財団 園芸農業の振興に関する協定を締結

沖繩美ら島財団と沖繩県農林水産部は、園芸農業の振興に関する協定を締結しました。今後、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かした沖繩県の園芸農業の振興を図ることを目的に、両者の協働による事業等を推進していきます。

【締結式】

- 日 時：平成 27 年 3 月 10 日（火） 16:00～
- 場 所：沖繩県農林水産部長室
- 調印者：沖繩県農林水産部長 山城毅
（一財）沖繩美ら島財団 理事長 花城良廣



締結式の様子

【協定締結の背景】

沖繩県では、沖繩 21 世紀農林水産業振興計画に基づき、沖繩の地域特性を生かした施策を推進し、農林水産業の振興を図っています。特に、今後生産拡大が期待される園芸作物などの戦略品目については、新品種や技術の開発・普及などを積極的に推進し、おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化に取り組んでいます。これらの取り組みを加速させていくため、民間組織との連携を図っています。

沖繩美ら島財団は、総合研究センターを中心に亜熱帯性植物の調査研究に取り組んでおり、熱帯果樹や花卉等の肥培管理や増殖技術に関して豊富な知見を持っています。また、国営沖繩記念公園を管理運営し、観光に関する豊富な知見を有しています。

沖繩県と沖繩美ら島財団が連携することにより、園芸品目についての技術の交流や、観光客をターゲットとしたマーケティング調査等の実施が可能になります。両者の協働による事業等を通じ、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かした沖繩県の園芸農業の振興を図ることを目的に、協定を締結しました。

【今後について】

今後は、沖繩県と沖繩県農業研究センター、沖繩美ら島財団で構成される「沖繩県・沖繩美ら島財団連携推進会議」を設置し、熱帯果樹及び熱帯花卉の栽培・増殖の技術開発や技術交流、種苗供給体制の構築等に取り組んでいきます。

また沖繩美ら島財団が千葉大学との共同研究により、絶滅危惧植物であるリュウキュウベンケイを交配して作った切花用の園芸品種「ちゅらら」シリーズの普及に向けた取り組みなども協働で行っていきます。



「ちゅらら」シリーズ